

## 九州の企業・大学・研究所の紹介

### 新日本製鐵(株)八幡製鐵所 —Progress 明日へ

姫野 美子

(新日本製鐵(株)八幡製鐵所)

八幡製鐵所は、我が国最初の銑鋼一貫製鐵所として、明治34年(1901年)11月18日に操業を開始しました。爾來94年、官營八幡製鐵所から半官半民の日本製鐵株式会社、ついで民營の八幡製鐵株式会社、続いて新日本製鐵株式会社と経営形態を変更して来ましたが、この間当所は我が国鉄鋼業の歴史と共に歩み、業界のパイオニアとして日本鉄鋼業の発展に貢献して来ました。現在では、社の中核製鐵所として年間約400万トンの鋼材を生産しています。

当所の生産構造の特徴として、薄板・レール・鋼管(シームレス、スパイラル鋼管)・ステンレス(厚板、薄板)・電磁鋼板など、高級かつ全社一多くの品種をお客様のニーズにお応えすべく生産しています。特に、電磁鋼板は全世界での生産シェアの13%を当所製品が占めており(因みに、当社広畑製鐵所を含めると19%のシェアとなる。)国内のみならず海外のお客様から高い評価を得ている製品です。また当所は輸出比率90%以上のシームレス鋼管を代表に、社内でも輸出比率の高い(40%、全社平均30%)製鐵所でもあります。

当所は上述のように、固有品種を含め数多くの品種を生産しているため、全国をマーケットとして鋼材を供給して来ましたが、近年では当所の位置する九州の地にも大手自動車メーカー

など素材組み立て型産業等が相次いで進出しており、それに伴い今後益々当所の果たすべき役割は重くなりつつあり、これまで以上のより細かい品質・デリバリーが重要になっています。これらの品質等を支えるべく、これまで当所では長年にわたる製鐵技術の蓄積をもとに、新技術開発をはじめ種々の新分野開拓に積極的な役割を果たして来ました。更に、当所では国内外の需要家のニーズにマッチした優れた製品を安く多量に生産するため、当社の各技術研究所とも連携をとり、最新の研究設備を駆使して生産技術・設備技術・環境保全技術等、技術開発に取り組んでいます。

また当所の立地している北九州市との関係も設立当初から非常に密接な関係を保っています。政令指定都市でもある北九州市は、人口100万人強、そのうち全工業従業者数が83000人弱、市街化区域面積19000haを抱えています。そのなかで当所は従業者数・土地面積ともに10%強を占めています。このため、当所は保有する豊富な土地・技術・人材等を活用し、『事業を通じて地域社会に貢献する製鐵所』を目指しています。

特に、遊休地の活用に関しては、東田総合開発を中心に地域と一体となった新しい街づくりを推進中です。また、構内の一部を市民に開放して「アートギャラリー」を設置したり、毎年夏には市内の小学生を対象とした「子供スケッチ大会」を開催したり、と地域社会との共生を図っています。

以上記してきましたように、当所は製鐵事業のみならず新規事業等の複合経営にも、固有の特徴を最大限に活用しています。今後も日本鉄鋼業において特色ある製鐵所づくりを目指して、新技術・新商品の開発、地域社会の活性化に繋がるような事業の推進、そしてそれらを支える人を活かす所運営の構築に取り組んでいきます。

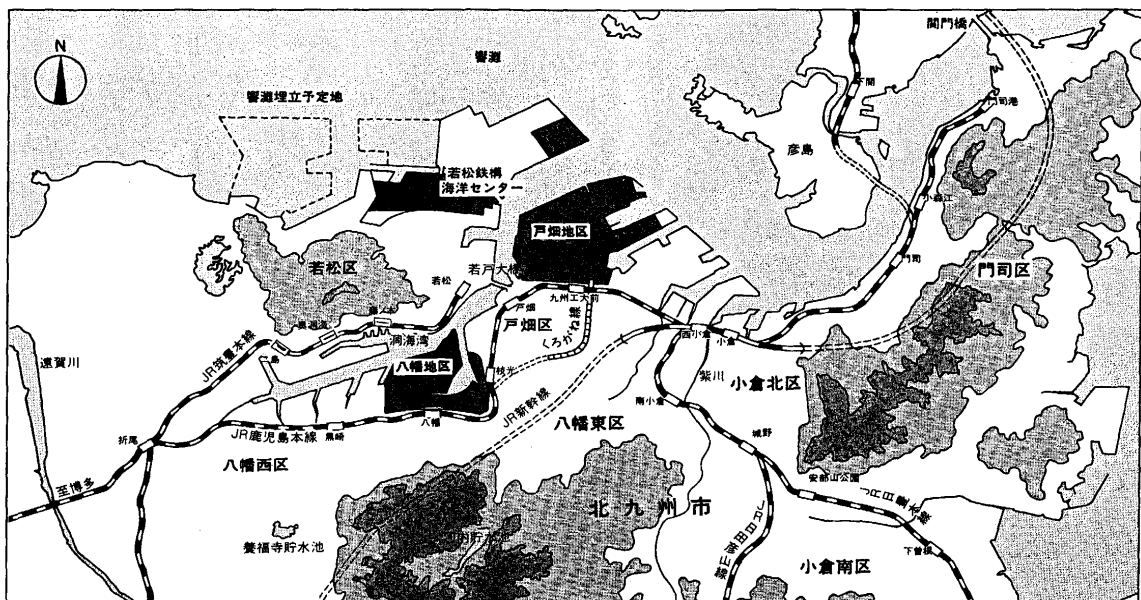


図1 八幡製鐵所と北九州市

